

第5号

発行日 平成15年新春号

曹洞宗 天祐山 公田院 仁叟寺

山雲水月

発行責任者 仁叟寺 住職 渡辺啓司

平成15年 住職年頭挨拶



謹賀新年

へた じょうず
「下手は上手の手本なり」
ぜあみ ふうしかでん
世阿弥『風姿花伝』



平成15年 仁叟寺年間行事予定

- 1/1 年頭祈禱
- 1/3~1/4 年始挨拶
- 2/3 節分会
- 2/15 涅槃会
- 3/9 大般若法要
- 3/18~3/24 春彼岸
- 3月末 筆供養
- 4/8 花祭り
- 7/12~7/16 県外檀信徒棚経
- 7/23~7/24 子供禪の集い
- 8/13~8/16 お盆
- 9/20~9/26 秋彼岸
- 12/8 成道会
- 12/31 除夜会
- 毎週土・日曜日 書道教室
- 毎週水曜日 定期坐禅会
- 隔週水曜日 華道教室・梅花講稽古

最初から全てが分かっていて熟練した人はいない。ましてや、
しゅぎょう
修業に上手とか下手とかない。皆、仏様の子だからどんな人でも平等で同じです。他人の欠点を見ることは、自分の欠点を知ることでもあり、他人の良い所を見ることは、自分の勉強となることである。

まんしん これ
慢心することなく、日々是

しょうじん
精進。一步ずつ、ゆっくりしっかりと、前を見て、横を見て、後を見て、皆で共に歩むことが大切でありましょう。

檀家・信者の皆様方の身体の健康と心の平安。そして、家内の幸福に仁叟寺本尊様の限りなきご慈悲とご加護がありますよう、祈念申し上げます。

平成15年年回法要一覧表

一周忌	平成十四年	二十三回忌	昭和五十六年
三回忌	平成十三年	二十七回忌	昭和五十二年
七回忌	平成九年	三十三回忌	昭和四十六年
十三回忌	平成二年	五十回忌	昭和二十九年
十七回忌	昭和六十二年	百回忌	明治三十七年

※1 以上、各ご家庭に於いてご確認下さい。

※2 該当檀信徒各家にはハガキにて通知が届きます。



しゃかむにぶつぞうこんりゅう

釈迦牟尼佛坐像建立

藤岡市白石の和島石材(株)の代表取締役社長和島孝之氏が、亡きご両親の菩提供養のためにと、当寺に白御影石製の釈迦牟尼佛坐像一体を寄進建立いたしました。台座を含め高さ約3mの同大仏は、仁叟寺新墓地入口、西門そばに安置されております。お墓参りなどそばを通過する際にはぜひかいげんしきお参り下さい。また、この仏像の開眼式は今年だいはんにやえの
大般若会法要に併せて行う予定です。

いふうどうどう たたず

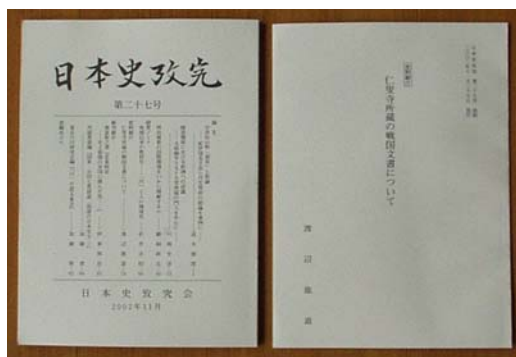
威風堂々たる佇まいをみせる釈迦牟尼仏坐像

副住職、論文発表

去る11月30日(土)に、日本史攷究会にほんしこうきゅうかいの学会が早稲田大学教育学部にて行われました。その際、当寺副住職の論文が同会誌に掲載されました。

題は『仁叟寺所蔵の戦国古文書』。仁叟寺に現存する古文書(吉井町史跡指定)を初めて学会で紹介させていただきました。また、この論文を書くに当たり、藤木久志立教大名ほかそのとよろか 誉教授、副住職の恩師である外園豊基早稲田大教授、黒田基樹駒澤大講師各位には大変お

→左・日本史攷究会会誌
右・副住職論文冊子
『仁叟寺所蔵の戦国古文書』



世話になりました。この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

なお、同論文は冊子仕様に印刷をいたしました。希望者には在庫がある限りほんぶ頒布いたします。当寺までご連絡を下さい。



ばいかこう

梅花講発表会

番目どうだんで登壇し、緊張しながらも御詠歌ごえいかを堂々ひろうと披露いたしました。参加した講員そうこんは「荘厳な会場の中、気持ちよく御詠歌を唱え、また聞くことができ、とても心が休まった」と語っておりました。

仁叟寺梅花講は昨年1月の設立(寺報創刊号参照)。現在、住職の妻、恵津子の指導の下、講員10名が隔週水曜日の午後1時半～3時半まで練習を行っております。会費は500円で随時講員募集中。興味がある方は、是非当寺までご一報下さい。

練習の成果を思う存分に披露

去る10月28日(月)、草津町草津の桜井ホテルに於いて第45回群馬県梅花大会が開催されました。当寺梅花講は講員全員10名で参加。7

寺史編纂室通信 - 4 -

去る10月10日（木）～11日（金）の一泊
わた
 二日に亘り、当寺寺史編纂室研修参拝旅行が
 行われました。寺史編纂委員の計11名が参加
まつしろ ちょうこくじ もちづき
 し、長野県長野市松代の長國寺、望月町望月
しんによいん あまびき こうようじ
 の信永院、甘楽町天引の向陽寺などを取材、
 参拝をいたしました。特に信永院と向陽寺は
し せ
 当寺の末寺で、それぞれが仁叟寺四世
しょうざんどうごん
 莊山道嚴大和尚の開山であります。

信永院では、その四世のお手植えと伝わる
 樹齡約400年のカヤの木や望月家の資料などを
 拝見いたしました。また、向陽寺では昨年夏
くり
 に完成したばかりの庫裏を案内していただき



寺史編纂の取材（於、長野県望月町信永院）

ました。
 両寺におかれましては、ご多忙の中、委員の
 皆様を接待し、案内していただきました。この
 場を借りまして、厚く御礼申し上げます。

仁叟寺探索-2-

す。この大釜、戦国時代の作で、武田信玄と
たけだしんげん
うえずぎけんしん かわなかじま
 上杉謙信で有名な川中島の戦いでも使用されたと
 伝えられています。名前の通り銅製で、一度に約
た
 300人ももの人の炊き出しができたと言われていま
 す。

現在は、本堂の入口の土間に安置してありま
 す。来寺された際には、是非ご覧になりまして、
ふ いか
 歴史に触れてみては如何でしょうか？

← 歴史を伝える大銅釜 だいてうかま



おおがま

今回の探索は「銅の大釜」を取り上げま

じゅかいえ

大授戒会法要にて住職が導師

群馬県曹洞宗青年会（以下、群曹青に略）の
 創立40周年の記念行事として、榛名町室田の長
 年寺において大御授戒会が開催されました。授
 戒会とは仏事では大変な慶事行事であり仏弟子
 になる儀式のことを言います。11月5日（水）
 ～8日（土）の4日間に亘るこの行事で、住職
ごかいさんごしけんばんふざん
 は初日11月5日の「御開山午時献飯諷経」の導
 師を勤めさせて頂きました。

また、この大御授戒会は群曹青30周年の際に
 はここ仁叟寺で行われました。

尚、
 副住職
 もその
 行事の
 間、泊
 まり込
 みでお

手伝いをさせて頂きました。同授戒会は、一
 般参加者約200名、お手伝いの県内若手僧侶
 60人ほか多数の方々のご協力の下、無事に圓
 成いたしました。



えんじょう

授戒会法要の圓成を祈念

総代人新年挨拶

明けまして、
おめでとうございます

謹んで新年のお慶びを申し上げ、併せて檀信徒ご家族ご一同様のご健康とご多幸をお祈りいたします。

さて、お蔭様を持ちまして、仁叟寺の

伽藍境内も年を重ねるごとに整備充実され、護持会による除夜会・節分会などの年中行事もいよいよ盛会となりました。また、曹洞宗大本山總持寺で2年間もの厳しいご修行を見事に成就された龍道副住職も帰山し、仁叟寺も啓司住職を中心に内外共に横溢、益々磐石の安きを得ることができました。

しかしながら、私達を取り巻く社会環境は、日本のみならず国際的にも混迷と激動変転を極め、不透明な先行きに多大の危惧と不安を抱かざるを得ません。考えてみますと、この世界の全てのものは、いわば相互依存で成り立っております。仏法で言う「一切皆空」であることを忘れ、多くの人々のみならず、世界の国々までもが、自己の利害や欲望に捕らわれ、対立抗争を繰り返している昨今です。曹洞宗を開かれた道元禅師は『正法眼蔵随聞記』の中で、「人々は皆、仏体を持っているから、その心掛けと精進によって人格を高め、人間としての正しい生き方を体得することができる」と説いております。現在の私達は、物質的な豊かさを貪欲に求める余り、仏性も本来人間としてあるべき姿を忘れてしまったのかもしれない。

慈しみの心をもって、人間のみならず全ての生類をも一切平等に愛する慈悲や平等や平和を強く説いた仏の教えを今こそ喚起していかなくてはなりません。無明に覆われたこの娑婆世界に、少しでも光明をもたらすべく、仁叟寺を中核として、仏法僧の三宝に帰依し、本年も檀信徒一同努力精進していきたいものです。

平成15年 元旦
仁叟寺総代人一同
(文責、総代長
向井周治)



仁叟寺総代人一同

向井周治	金子 明	三木利次
森 祐夫	篠崎和男	関口益雄
春山 繁	井上正俊	矢島正義
(順不同、敬称略)		

せつぶんえ

節分会について

まめま

豆撒きでは年男あるいは一家の主人が「福は内、鬼は外」といいながら煎った大豆をまき、みんな自分の年の数だけ豆を食べるとこれから一年病気になる言われています。また妊婦のいる家庭ではこの豆を安産のお守りにもします。もともと宮中の行事が一般家庭に普及したものとされますが、最近は大きな神社仏閣などで芸能人やスポーツ選手などを招いて豆撒き大会をやっているケースも多いようです。



大節分会の様子

さて、この大豆ですが、硬いですね。硬いものというのは「木火土金水」の五行では「金」に属します。この大豆は最初煎ることによって火気にあてられ「火こ剋金」の原理で剋された上に、「鬼は外」といって外にまかれて捨てられたり、「福は内」といってまかれてから人々に食べられたりして、要するに豆はみんな「やっつけられてしまいます」。

古来疫病や災厄というのも金気に属するものと考えられていました。ですから豆というのは実は鬼をやっつける道具でありながら実は鬼そのものでもあるわけ

で、豆まきというのは邪気を祓うとともに、「金」の気を剋することで「金剋木」で金気に剋されるはずの「木」の気、つまり春の気を助ける行事、つまり春を呼ぶ行事でもあるのです。

豆撒きの豆について、重要なことのひとつは煎り豆を使うということです。万一、生豆を使って、拾い忘れたものから芽が出るとよくないことがある、と言われています。

また近年、「下に落ちた豆を食べるなんて汚い」といって、大豆ではなくピーナッツを使う人たちが増えてきました。この風習は新潟地方から広まったようです。

とにかく、福を招き春を呼ぶ、そして邪気を払うこの伝統ある節分会の行事に参加してみても如何でしょうか？



行雲流水（編集後記）

編集人 副住職 波辺龍道

明けましておめでとうございます。

昨年は龍源寺住職就任式（しんざんけつせい）晋山結制式）をはじめ、私にとっては色々な転機となる年でした。まだ、住職になって半年余りですので、不勉強なところが多々ありますが、『日々是精進』の精神で自分にハッパを掛けていこうと思っております。

現在は北朝鮮拉致問題や出口らちの見えない不景気、失業者の増加など、暗いご時世です。その中で、お寺の可能性、何かできるのか？といったことを考える、それを今年の抱負といたします。ご指導ご鞭撻のほどべんたつ宜しくお願いいたします。

本年もまた、宜しくお願い申し上げます。

→ 鈴生りのすずな 柚子の樹ゆず
（於、龍源寺長屋門会館脇）
りゅうげんしながやもんかいかんわき

